

# 金と文化と資格と文学

……やっぱり愚痴

高橋 純

私は暇だと思われるのか、昨年  
に続き二回目の登場である。書いても  
お金にはならない。むしろ、書くとい  
う行為には時間と手間が相当<sup>①</sup>かかり、  
本来すべきことの時間が割かれてしま  
う。正直、キツイ。しかし、このよう  
に書くと、きつと最近の拝金主義に侵  
されているとの批判をいただくことに  
なるのだろう。

そこで、少し拝金主義ということば  
を考えてみたい<sup>②</sup>。このことばは、ホリ  
エモンや村上ファンドの検挙、中国か  
らの輸入品の安全性の問題などの例と  
セットでよく耳にする。だいたい倫理  
観の欠如という内容と一緒に現れてく  
る。このような話の流れでは、拝金主  
義は倫理観の欠如に結びつくようだ。  
まあ、倫理観が欠如しているのかどう  
かはさておき、拝金主義とは、お金を  
最も価値のあるものと捉えるのだけ  
ら、お金が倫理に優先するのだから。

しかし、おもしろいことに大学改革  
もお金と結びつかないものはいらない  
という方向で進んでいるような気がす  
る。そして、お金になりそうな学  
科には親も子どもを入れたがらない。  
国も親も稼げ！稼げ！と大合唱。国と  
親とは、相似形にあるのかもしれない。



では、拝金主義の反対は何であろう  
か？ イメージ的には、「清貧」といつ  
たところだろう。しかし、「衣食足り  
て礼節を知る」ということばもある。  
あまりに貧しすぎると、人間やはり卑  
屈になる。世の中から大切にされてい  
ない存在価値のない者として扱われて  
いると、自暴自棄にもなりかねない。  
「太った豚になるより、痩せたソクラ  
テスになれ」そんなことばもあるが、

本当はみんな「太ったソクラテス」に  
なりたいたのである。

日本語のイメージの中には不思議と  
「お金持ち≠悪人」「口がうまい≠不誠  
実」のような意味合いを内包している  
傾向がある。しかし、大学内ではFD<sup>③</sup>  
と称して、口がうまくなって上手に講  
義をすることが義務化されつつある。

ちなみに、昨年(二〇〇六年)の九月  
にジャストシステムが行った「全国の  
大学1年生・大学教職員 意識調査」  
では、大学2年生の大学での不満の一  
位が「講義」で、理想の大学教授とし  
て選ばれたのは、一位が北野武、二位  
が太田光(爆笑問題)、三位が三谷幸  
喜であったそうだ。別に、大学教員は  
芸人じゃない。まあ、大学では、お金  
を稼ぎ、口がうまくなければなら  
ないのである。イメージ的には、大学  
は象牙の塔から悪人・不誠実者の巣窟  
へと変身することが求められているよ

うである。

それが証拠に、ある福祉関係の先生  
に会う機会があって、その先生の話に  
よると、その先生はある会で、短大で  
は文学科のような役に立たないものは  
やめて、経営学科を作ればいいと主張  
したのだそうだ。さすが福祉の先生！  
その先生はきつと姨捨山<sup>④</sup>が一番の福祉  
だと思っているにちがいない。そうい  
えば、福祉の分野は、介護保険制度が  
始まったころ就職に有利な資格が取れ  
るとして、高校生から人気を得た分野  
であった。

でも本当は、世間全体が拝金主義に  
なっており、それに対して罪悪感を  
持っていて、そのスケープゴート探し  
に躍起になっているのかもしれないが  
……。



しかし、こんな感じで見てくると、  
どうも倫理観はお金を生み出さないよ  
うだ。困ったものである。よく考えて  
みると、確かに先進国と言って富を得  
て栄えている国は植民地主義の中、他  
の国や民族を抑圧して来た。自文化を  
他文化に強要し、排除してきた。「倫  
理観」を持っていたら、そんなヒドイ  
ことはできないはずである。

ここで、再度「しかし」である。「文化」

は自文化の中にとっぷりと浸っているときには、残念ながら他文化はしばしば悪になる。自文化の中にだけに閉じこもってしまうと異文化とは共存ができない。例えば、日本では食事の際に立て膝はいけなし、お椀をおいたまま食べるのは行儀の悪いこととなっている。しかし、韓国では、問題ない。というか、日本式にすると、韓国では逆に行儀が悪かったりする。また、日本では麺類をすするときに音を立てるのが普通で、いい音を立てると、美味しそうに食べるね、などと褒めてもらえるが、欧米では非常に行儀の悪いこととなる。



文化というのは、非常に透明で我々の身に染みついていてるようなもので、知らず知らずのうちに文化に従って暮らしているものだ。例えば、電話であいさつをしたり、お礼を言ったりする際に、相手には見えもしないのに、ついつい一生懸命おじぎをしてしまう。日本人の悲しい性かな！という感じだろう。

「悪魔の言語」ということをご存じであろうか。これは、十七世紀、日本に布教に来たキリスト教の宣教師が日本語に名付けたものである。日本語

の漢字かな交じり、一つの漢字を音読・訓読するなど、表記法の複雑さに、これは布教を邪魔するために悪魔が作り上げたものだと言ったのだそうだ。何とも自分勝手な解釈である。

ちなみに、欧米では、「自分がよかれと思つたことは、他人にもしてあげなさい」という思想だそうだが、日本では「自分が嫌なことは他人にしてはいけない」と言う。欧米風の考えからすれば、ボランティアなどが盛んになつてうまく機能する理由がわかる。



しかし、「自分」にとつて合理的で良かったものでも、「他人」にとつては不合理に感じられ迷惑なこともある。こんなとき「良いから！」と云つて押しつけてしまつては、植民地主義や大東亜戦争を招きかねない。冬場、水の中にいる水鳥を見て、「まあ寒そう、暖かな所に移してあげましょう」と云つて暖炉の前に持つて行つたら、焼き鳥になつてしまつたなんて話は、シャレにもならない。水鳥には水鳥に適した環境があるわけである。

このように文化は、多様で決して一つの文化だけが正しいとか、合理的だとかというわけにはいかない。ただ「不倫」は文化か否かということについて

は言及しない。

ゲーテの『若きウェルテルの悩み』の中に「世の中のいざこざの因になるのは、奸策や悪意よりも、むしろ誤解や怠慢だね。すくなくとも、前の二つの方がまねなことはたしかだ。」(竹山道雄訳)という行がある。

そうなのである。大方のいざこざはその原因をきちんと見もせず、考えもせず、自分本位に物事を考えることから始まる。だから、文化を研究するよな学問は、お互いを知るための糧となり、世界平和に貢献する学問なのである。最近、人文系(いわゆる社会科学を除く)の学部がどんどんなくなつていくのと、軍拡・核配備が声高に叫ばれるようになったのは、直接の関係を明確に説明できなくとも、相関関係はあるのかもしれない。昨今、データマイニングなどというのが流行つており、紙おむつを買う人はビールを一緒に買う可能性が高いのだそうだが、それ以上に人文系学部減少と軍拡機運の相関性はあるような気がする。



我々の共通認識として、「人を殺してはいけない」というのがある。これは自分が生き延びる上で非常に重要なことだ。道徳的・宗教的なことはさて

おき、人を殺していいのならば、自分もいつ人から殺されるかわからない。自分を守るためにもやはり他人を殺してはいけない。しかし、単に自分本位に人を殺してはいけないのなら、結局法に触れないのなら他人の不利益など構わないということになつてしまう。

また、余談になるが、「明日、地球が減びるとしたら、何をやる」という質問があるが、その答えに「大切な人とおごす」とか「死ぬほど好きなものを食べる」とか「嫌いな奴を殺す」とかいうけれど、そんなにみんなが好き勝手なことばかりしたら、地球が減びる日が一日早まるだけでしょう。だつて、みんなが自分だけのために動いたら、誰が電気を作るの？交通は止まるよ。それに貨幣経済なんて成り立つわけないもんね。だからやっぱり自分本位は恐ろしい。

本当に平和に暮らすためには、他人を尊重するという気持ちが大切になる。他人を尊重する気持ちがあるから、「(他)人は殺せない」となつた方がきつと暮らしやすい社会になるはずだ。

先にも触れたが、役に立つ立たないで、金になるならないで、判断されることが多くなつてきたように感じられる。私などは、大学の文学部を卒業し、大学の文学系の学科に就職している、金にならない典型的な役立たずなのだろう。しかし、知識はあらゆる

でつながっていて、何の関係のないように思えることが、以後の発展に思わぬ寄与をすることがある。人間は、神として君臨するには、あまりにも未熟に過ぎる。本当はわからないことの方が多いという事実を認識するところからはじめなければならぬ。どんなに科学が発展しようと、我々の前途には未知の部分が無限に広がっている。

だから、目先の都合で、学問の分野を限定してしまうのは、あまりいいことだとは思わない。広くさまざまな分野へと、現在のように複雑な社会だからこそ、広がっていかねばならないのに。

口うるさいから、気にくわないから、といった理由で殺人が行われているが、これも目先の問題の解決だけに囚われた結果だろう。



若者は、与えればどんどん吸収して成長していく。資格だ、役に立つの立たないのなどという狭い見地に縛ることなく、若者がいろいろなることを学べる社会になって欲しい。本来は個性を伸ばす教育を目指していたはずなのに、不思議なことだ。

さて、ここまで書いてきて、どんなまとめになるのだろうかと考えたが、

その場その場で適当に短いトピックをつなげただけなので、その場その場できりあえずまとまっている。逆に言うところ全体としては、まとまっていない。だから、本文全体をまとめるまとめはない、というのが本当だ。しかし、強いてこの文の主旨は何だったかと聞かれれば、私の愚痴である。長いページに渡って、私の愚痴につきあってくださった方には本当に感謝申し上げます。



(1) この文章は、一つのことと言及し筋道を立てて記されているものではなく、その場その場のキーワードに関連して、話題がちよこちよこ変わるハイパーテキスト型(?)で、インターネット的である……かな?

そこで、文章もブログ風になってしまった。しかし、書けとは言われたが、何について書けとは言われていない。とにかく「文化」についてならば、何でもいいのだそう。ということ。今では、インターネットやブログもすっかりと日本社会の中に根ざして、文化の一つとして認知されつつあるように思われるので、文章自体をインターネットっぽくハイパーテキスト型で、文体をブログ風にして、文化を語つ

てみるというのも、なかなかオシャレ(笑)なのではないだろうか。

(2) FDとは、フロッピー・ディスクではなく、Faculty Developmentの略で「大学教員の資質・教授能力の向上」(『midas 2007』(集英社))「大学改革」の項より)を意味する。確かに、自分が高校生だったとき、若者文化の象徴だった深夜放送の「オールナイト・ニッポン」などでは、大学の試験の答案にカレーの作り方を書いたが単位がもらえたとか、ある教授は、テスト用紙をばらまいて、遠くへ飛んだ順で成績をつけるだとかいろいろ話が、ラジオから聞こえてきた。卒業よりも入学の方に重きがおかれた日本の大学受験文化では、それで良かったのだろう。日本の文科省も小手先の大学改革ばかりでなく、この際、全入時代に合わせて、入試を簡略化して、卒業を厳格にするようにしてしまえばいいのと思うのだが、いかがだろうか。

でもこれに反対するのは、もしかしたらある学閥の人たちなのかも知れない。その学閥の人たちって、きつと自分たちはその入学試験に受かって大学を卒業したということが誇りになっているんですもの。誰にでも入られては、たまったものじゃないのかも。ちなみに、私もいい加減なことを書いておりますが、とりあえずこの文章を書くにあたって数冊ほど本を読んでみま

した。その中に、ベストセラー『国家の品格』(新潮新書)とマスコミでもおなじみ榎原英資氏の『幼児化する日本社会——拜金主義と反知性主義』(東洋経済)があり、その両氏はそろって、旧制一高の寮歌の「栄華の巷、低く見て」という行を引用していた。やっぱ、エリートって違うんですね。

(3) 人にとつて、あるものが役に立つか立たないかは、その人が一生を終えるまで、わからないことである。どんなに優れた人でも、未来をすっきり見通す先見の明を持っているとは思えない。しかし、これもベストセラーになったが、辰巳渚著『捨てる!』技術』(宝島新書)によれば、「どりあえずとつておく」は禁句だそう。

(4) データマイニングという用語を知らない方のために、『midas 2007』からその意味を引用しておく。「マイニングとは発掘という意味で、大きな鉱山から貴重な鉱石だけを発掘するように、大規模知識データベースから貴重な情報だけを計算機で自動的に発掘することをデータ・マイニングという。大量にデータを入れておくだけで、人間には思いもつかなかった規則性をコンピュータが発見してくる。アメリカのマーケットでは週末に男の人が紙おむつとビールを買うという規則を発見したのが有名。」(「データ・マイニング」の項より)そして、デー

タマイニングの中にテキストマイニングというものがある。データマイニングは、主に数値データから有益な知識・情報データを取り出そうというのに対して、テキストマイニングとは、扱うデータが数値データでなく、「生の文章（テキスト）」である。

そして、先にアンケートであげたジャストシステムでは、大学運営をサポートするとしてアンケートの自由回答を集計するテキストマイニングのソフトを売り出しているのだ。なるほど、なぜジャストシステムが先のようなアンケートを行ったのが納得でき

た。そして、実は、あのアンケートには「大学生活の中で一番楽しいことは」という項目もあったようで、その回答で一位は「友人と遊ぶ」、二位は「サークル活動」、三位は「趣味を楽しむ」、四位は「講義を受けて勉強すること」、五位が「彼氏・彼女と遊ぶ」なのだそう。四位を除いて、本来大学とは関係のない回答ばかりである。そして、この項目はジャストシステムのページ (<http://www.justsystem.co.jp/news/2006/news/j10181.html>) ではなくなっていた。(もしあったのだとしても、私には見つけられなかった。)

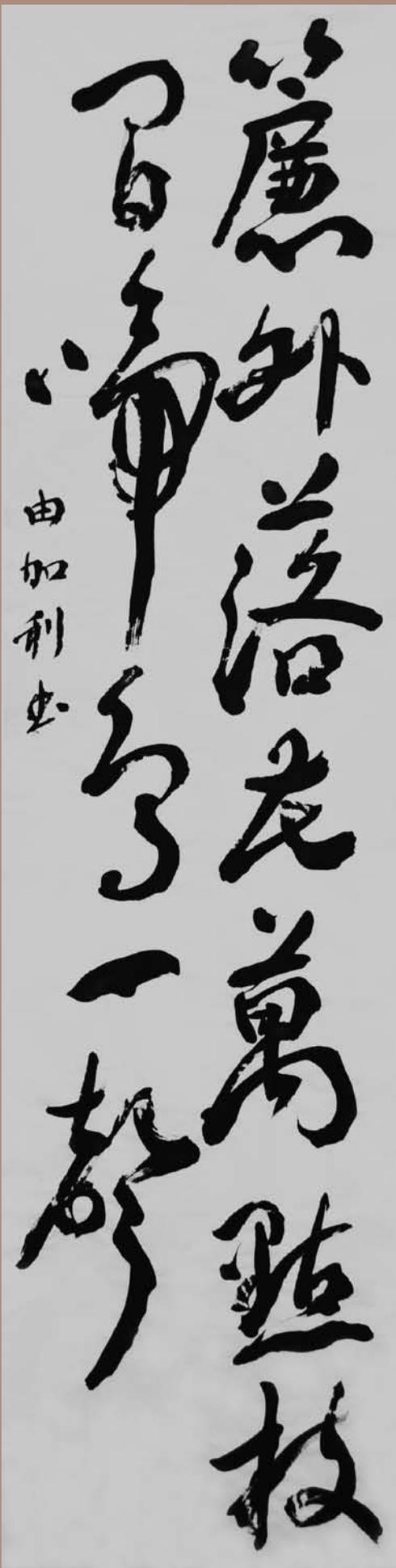
大学での不満は「講義」という結果を煽り立てて、ソフトを売りたかったのかも知れない。ちなみに、上記の結果は、「Tmedia News」というサイト (<http://www.tmedia.co.jp/news/articles/0610/18/news119.html>) から引用させてもらった。

ちなみに、大学での授業は単位制となっており、規定単位数を取得することによって卒業となる。そして、授業に与えられる単位数は、難しいことは抜きにして、ざっくり言うと、四十五時間で一単位となっている。そして、この一単位には、予習・復習・課題を

する時間が含まれているわけで、大学の授業そのものが予習・復習を前提としたシステムとして成り立っている。

それにもかかわらず、何の準備もなく講義を聴いているだけで、わかるわけもなく、わからなければ「そりゃ、「つまらない」ということにもなりましようよ。我々が学生の頃（まさにバブル期であった）は、「勉強しない大学生」と散々叩かれて、今度、大学教員になったら「学生が勉強しないのは大学の所為」と言われるので、何とも寂しい気持ちである。

(たかはし・じゅん／言語学)



安達由加利 (あだち・ゆかり／文化資源学系1年)

☆遊覧船☆

それから、堀川遊覧船を見つけました

ビリー：あれ、何？What's that?

学生：あれは堀川遊覧船というんだよ。堀川を通して  
松江城のまわりをぐるっとまわるんだ。It's called  
Horikawa Yuransen. It's a boat tour, which goes  
around Matsue Castle, along the Horikawa River  
moat.

ビリー：楽しそうだね!! どんどころを通るの? How  
exciting! What can we see from the boat?

学生：うーん。小泉八雲記念館や旧居とか武家屋敷と  
か。歴史ある風景をみることができるよ。

Well, the Lafcadio Hearn Memorial Museum,  
Lafcadio Hearn's house, and also a Samurai house.  
You can see an old view.

ビリー：What old view? 古くなった風景なの?

学生：No, no, no! 歴史ある風景だ。

ビリー：Oh, you mean, a historical view?! Or, a view  
of how Matsue used to look in the past.

学生：Yes, yes, yes! The moat was built about 400  
years ago. It's too old.

ビリー：わあお。古すぎるの?それは、どういう意味?  
危険なの?

学生：No, no, no! とっても古い川だ。

ビリー：Oh, very old! それなら、安心だ! ぜひ乗って  
みたいな。

☆月照寺☆

ビリー：今は、どこを通っているの?

学生：It's called Gesshoji. You can see the tombs (お  
墓) of the nine lords of the Matsudaira clan (藩) of  
Matsue Castle there. Shall we get off the bus and  
go to see them?

ビリー：Oh, great! Come on!

(バスを降りて、月照寺に入ります)

学生：お墓以外に、ビリーにとって、他に二つの興味  
深いものがここにあるよ!

まず、この石碑。江戸時代の雷電という大変大きな  
力士 (Sumo wrestler) の手形 (handprint) がつい  
ているよ。さあ、どちらの handprint が大きいでしょ  
う。ビリーのかな?

ビリー：僕は雷電には勝てないよ!

学生：(Laugh) ☆ (笑) 後は、もう一つ、もしかし  
てビリーより大きく、強いものが、ここに住んでい  
るだよ。Lafcadio Hearn の作品にも書いてあるよう  
に、夜中、月照寺を出て町を歩き回る巨大な亀なの  
よ。

ビリー：わあお!それはすごい。

学生：そう、この亀、私たちが皆大好き! 森に隠れて  
いるが、そっと、ビリーに紹介しよう!

.....  
それから、松江観光を終え、ビリーをホテルまで送  
ります。

ビリー：Thanks for a great time!

学生：You're well come! Whoops! - You're welcome!  
Anyway, とりあえず、今日の松江案内は、どうだっ  
た?

ビリー：ああ、とても楽しかった。ありがとう!

学生：それはよかった。では、明日、学園祭で会おう!

ビリー：OK! See you tomorrow!!

(かの・きゅらりん/日英比較文化論)



# BILLY COMES TO MATSUE !

## 狩野キャロライン&卒業研究ゼミ生

ビリーが松江にやってきました！ なぜなら、島根県立大学短期大学部松江キャンパスの学園祭に招待されたからです。そこで数名の学生は、出雲空港に彼を迎えにいきます。ずっと楽しみにして、首を長くして待っている学生たちが、大きな手作りのぼりを持って、英語で：“Well Come to Matsue, Mr. Billy!”と書いてあります。そして、空港の Arrivals の出口から、懂れのビリーがやっと現れてきます……

学生：Wow! (わあお!) Hi, Mr. Billy!

ビリー：Oh! Hi, GUYS (^-^)! Mr. を付けなくていいよ！ビリーだけで呼んでいいよ！苗字じゃなく、下の名前だからね。ハハハ！(Laugh) ☆ (笑)

学生：ああ、そうですか。分かりました。Oh, really?! Got it!

ビリー：素敵なのぼりですね — 「松江に良く来ます！」と書いてあるね。

学生：ええ？ No, no, no! 「ようこそ松江へ！」ということですよ。

ビリー：なるほどねえ〜！ You mean, “Welcome to Matsue, don't you?!”

学生：Oh, yes, yes, yes! あれ？さすが、ビリーは、日本語が話せるじゃない?! Whoops! 気をつけなくちゃ！

……………  
Anyway、まず学生たちはビリーとレイクラインバス (LAKELINE BUS) で松江観光へ……

レイクラインバスは松江の市街地と観光スポットとを結ぶ観光バスです。宍道湖の夕日をイメージした赤を基調としたレトロバスです。県立美術館前の停留所でバスに乗ります。

ビリー：おーすてきだねえー Oh, great!

学生：Yes! This is Shimane Prefectural Art Museum. いろいろな素敵な展覧会がありますよ！ではここから観光バスに乗ります。

アナウンス：レイクラインバスをご利用頂きありがとうございます。バス内では周りのお客様の迷惑となりますので携帯電話はマナーモードにして頂きますようお願いいたします。

ビリー：What was that?

学生：You can't use cell phones on the bus と言ったよ。

ビリー：それだけ？松江に来る前に、どこかのバスに乗った時、アナウンスもあったが日本の携帯はそんなに音が大きいのか？バスから外にまで聞こえるのか？と思った。

学生：どーいう意味？

ビリー：“Cellular phones should not be used on this bus, because they annoy the neighbors”

と言ったから。Annoy は、迷惑という意味になるが、neighbors は、近所の人だから、つまり、アナウンスで「近所迷惑になるからマナーモードにしろ」って言ったのだろ？

学生：(Laugh) ☆ (笑)

一行は宍道湖の景色を眺めながら松江城に向かいます。

☆松江城☆

学生：Look! That's Matsue Castle! It was built in 1611 and it took five years to finish it.

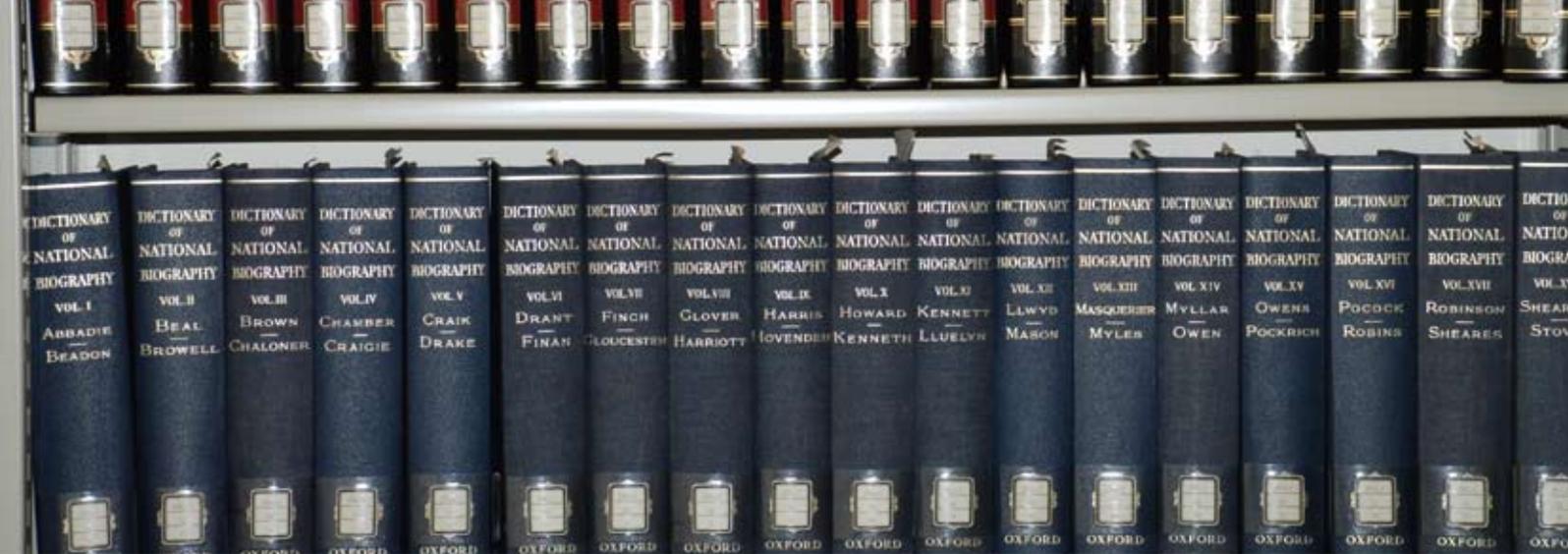
ビリー：Oh! What a long time!

学生：This built the lord Yoshiharu Horio.

ビリー：Really?! 松江城がヨシハル ホリオという大名を建てたの?!

学生：No, no, no! We mean, Yoshiharu Horio built Matsue Castle. He was Hideyoshi Toyotomi's follower.

ビリー：Aha! I know Hideyoshi Toyotomi! He is very famous person. Anyway, it's great!



# 本たちの受難

堀川照代

「本」は、私たちに楽しみを与えてくれたり、知識を提供したりしてくれ。時と空間を越えて著者と交流し人

生の指針を得ることも、登場人物の行動や感情に共感をおぼえ想像の世界に浸ることもある。膨大な文書を書写する手間を省きたいという弁護士が、科学の資料を読み漁ってコピー機を発明したように、本（資料）は夢を実現する材料や道具ともなる。本は、心の友とも人生の師とも、また調査研究の道具ともなるものである。

本は、著者の構築した世界であり、人類の知的遺産として後世に受け継がれていくべきものということに、誰も異論をさしはさむことはないであろう。しかし、本たちは常に大切に扱われ保存されてきたわけではない。大きな厄災にあつてきた本たちもある。

ここでは、本たちの受難について、いくつかの例を紹介しようと思う。

まず、本たちのなかで最も過酷な運命にあつたのは、その存在すら認めてもらえなかったものたちと言えよう。存在することが否定されたゆえに「焼き捨てられた」、つまり焚書にあつたのである。そのほか、鎖につながれた本たち、差別図書というレッテルを貼られた本たち、購入を禁止された本たちなどがある。

## 焼き捨てられた本たち

紀元前二一三年に「焚書坑儒」が行われたことは、世界史で習った方々も

多かるう。天下統一を果たした秦の始皇帝が、自分の政策に対する批判を押さえ専制支配を強固にするために、民間にあつた医薬・占術・農業関係以外の書物をすべて集めて焼き捨てたのである。さらに翌年には、数百人にのぼる儒学者を捕らえて穴に埋めて殺害した。始皇帝を批判した諸子百家の余勢の者たちへの思想弾圧であつた。

古代ばかりではない。近代にも焚書は見られる。第二次世界大戦中にナチス・ドイツが行つた文献清掃運動がその例である。「非ドイツ的図書」が大量に大群衆の面前で焼き捨てられた。焼却された本は二万五千冊とも三万冊とも言われる。それらのなかには、カール・マルクス、ニコライ・レーニン等の社会主義文献、フランススのアンリ・バルビューズや米国のアプトン・シンクレアなどの左翼的作品、ルマルクの『西部戦線異状なし』などが含まれていたという。

さらに、ブラッドベリの描く未来社会においても焚書が行われる。『華氏四五一度』（レイ・ブラッドベリ著、宇野利泰訳、早川文庫、一九七五）は、政府が本を読むことを禁じている未来社会の「焚書官」である主人公が、本を焼くことに疑問を抱き「本の中には人間がいる」と感じるようになるストーリーである。

主人公に対して上司は次のように焚

書の理由を述べている。「書物などというしるものがあると、となりの家に、装弾された銃があるみたいな気持ちにさせられる。そこで焼き捨てることになるのだ。銃から弾をぬきとるんだ。考える人間なんて存在させてはならん。本を読む人間は、いつ、どのようなことを考えだすかわらんからだ。そんなやつらを、一分間も野放しにおくのは、危険きわまりないことじゃないか」<sup>①</sup>

## 鎖につながれた本たち

中世ヨーロッパでは十二世紀頃から、図書は図書館内の書架や閲覧机に鎖でつながれていた。鎖つき本(chained book)である。囚人ならぬ囚書というところであろうか。当時の本は書写によって生産される大変貴重なものであり、館内から持ち出すことは勿論、館内でも自由に持ち歩けないようにとられた措置であった。これは迫害されたのではなく価値を認められたための措置ではあったが、本たちにとっては迷惑なことであつたらう。

十四世紀以降のヨーロッパでは、大学図書館や僧院図書館、大聖堂付属図書館などで鎖付き本が主流であった。オランダのライデン大学では、十七世紀初頭には千冊に及ぶ本が、書架や閲覧机に取り付けた鉄棒に鎖でつながれ

ていたという。

以後、十五世紀に発明された活版印刷が十七世紀以降になって普及し、本が量産されるようになり、蔵書が急激に増加するようになってはじめて、図書館の本たちは鎖から解き放たれたのであつた。

## 「差別図書」といわれた本(一)

一九七六年十一月、名古屋の四方八洲男氏から小学館へ、同社刊行の『オールカラー版世界の童話』の第九巻『ピノキオ』に身体障害者差別の思想を助長する内容が含まれているという抗議があつた。それにより小学館は、同社発行の五種類の『ピノキオ』のうち「めくら」「びっこ」という言葉を使っている四種類の『ピノキオ』の回収を決定した。

四方氏を代表とする『障害者』差別の出版物を許さない! まず『ピノキオ』を洗う会」のアピールでは、例えば次のような問題が指摘されている。<sup>②</sup>

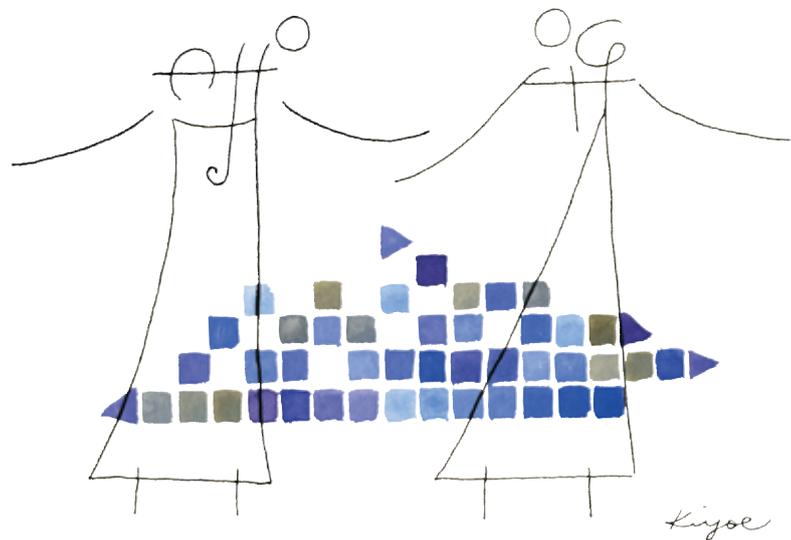
◎『ピノキオ』には一般に、びつこのきつねとめくらのねこ……といった書き方。そのきつねとねこがピノキオをだまして木にするし金をうばう……という話。松葉杖をついたきつねと黒めがねをかけたねこ……の絵、という内容がある。

◎小学館の国際版では、悪行の報いで本当のびつことめくらになったきつねとねこに「ピノッキオさん、金貨をぬすんだことはあやまります。どうかどうかおなさをかけてください。あわれなねこときつねめに、おかねをめぐんでやってください」とまで言わせるほど、障害者を哀れな者として描いている。

◎きつねとねこが、わざわざ、びつことめくらの真似をする。これらによって同書は、障害者は危なくて、おそろしい人達、また不幸でかわいそうな哀れむべき人達であるという、差別するところを小さな子どもたちにおしこみ、植えつけてしま

う。四方氏は名古屋市緑図書館に対して、『ピノキオ』は差別の点で問題があることを指摘し、同書の閲覧・貸出の停止措置を求めた。しかし緑図書館では、一年間「ピノキオコーナー」を作り同書を別置して市民とともに検討を重ねた結果、以下のような理由から『ピノキオ』を児童室に戻した。「百年前に書かれた童話『ピノキオ』は、現代の目で見直せば問題になる表現・内

容を持っています。図書館がそれを提供することによって、障害を持つ人たちが傷つけ、差別思想を助長するおそれがないとはいいきれません。しかし『ピノキオ』が障害をもつ個人の人権を明らかに侵害していることも、子どもの差別意識を助長するかどうか具体的に解明することも困難ですし、明白な差別図書であるかどうか断定できません。さらに、差別助長するおそれがないとはいいきれないという理由で資料提供をやめることは、市民の知る



権利を保障するという図書館の責任を放棄することになりますので、『ピノキオ』を児童室（コーナー）に戻します<sup>③</sup>。」

## 「差別図書」といわれた本（二）

一九九〇年十一月、長野市教育委員会は『ちびくろサンボ』の絵本、紙芝居、これに類するおもちゃ等を廃棄・焼却するように市内の学校や公民館、保育園、幼稚園に対して指示を出した。これは、市内で『ちびくろサンボ』のアニメ映画が上映されたり、市内の短大の学園祭で『ちびくろサンボ』の人形劇が上演予定になっていたりしていることを背景に、十月二十四日に部落解放同盟長野市協議会から「人種差別撤廃にむけての申し入れ書」が長野市長と教育委員会教育長に提出されたことに端を発した事件であった。部落解放同盟長野市協議会の主張は、『ちびくろサンボ』が人種差別につながるものという認識が欠けている、冬のオリンピック招致に向け長野市が国際都市を目指しているのに対して配慮が足りないということであった。

教育委員会の措置に対しては各方面から抗議が寄せられ、その後十二月一日に、長野市は、『ちびくろサンボ』問題に関して「廃棄・焼却」を依頼したことは行き過ぎとして撤回した。

『ちびくろサンボ』は、一九五一年にユネスコの「人権と人種差別の本質に関する声明」が出された頃から問題とされてきた。わが国では、一九八八年七月にアメリカの「ワシントン・ポスト」紙が、日本では黒人をモデルにしたマネキン人形がデパートで使用されたり、「サンボ」の名前を使用したキャラクター人形が販売されたりしていることを非難した記事を写真入りで報道したことから、活発な議論の的となった。それにより、キャラクター人形の製造・販売が中止され、学習研究社・小学館・講談社・岩波書店刊行の『ちびくろサンボ』が絶版とされた。

この原書版（イギリス）について、以下のことが指摘されている<sup>④</sup>。

- ① 絵が醜く、黒人のイメージのステレオタイプ化の原点である。
- ② 言葉の表現が現在、差別的表現となっている。特に登場人物の名前。
- ③ 筋そのものが黒人蔑視。持ち物をすぐ渡してしまう主体性のなさ、異様な食欲など。

当時の日本版は、どれも原書版とは異なる絵であったが、図書館界でもその対応が議論された。マスコミの報道を受けて、さまざま利用制限をした図書館や、館内で十分に検討した図書館があったが、結局、対応措置としては、『ちびくろサンボ』を廃棄する、利用制限する、そのまま配架する、と

### （別表）

- 黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』講談社  
… 芸能人の書いた本はふさわしくない
- 深谷昌志『現代っ子と学校』第一法規  
… 偏向している
- 五十嵐頭ほか編『講座日本の教育』（全11巻別巻1）新日本出版社  
… 闘争という言葉が出てくるから
- 早乙女勝元『東京が燃えた日』岩波書店（岩波ジュニア新書）  
… 戦争を扱っているからいけない
- もろさわ・ようこ編・解説『女たちの明日』（ドキュメント女の百年6）平凡社  
… “女”はいけない
- 松田道弘『トランプのたのしみ』筑摩書房（ちくま少年図書館）  
… “遊び”はいけない
- 小林初枝『こんな差別が』筑摩書房（ちくま少年図書館）  
… 書名がいけない
- 日本放送出版協会『日本の消費者運動』日本放送出版協会  
… “運動”はいけない

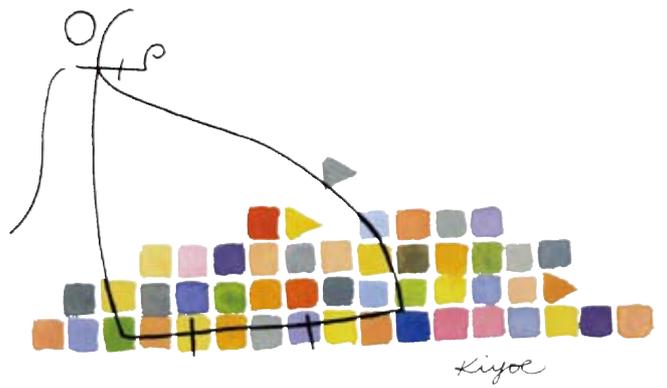
いう三つの方法が見られた。

### 購入が禁止された本たち

一九八一年十一月に愛知県高等学校教職員組合が「愛知県立高校図書館で管理職の一方的介入によって購入禁止となった図書リスト」をマスコミに公表した。このリストは、県内の百三十七の高校を対象に一九八一年十月に調査したもので、ここ二～三年来

### 疑いをかけられた本

一九九四年六月二十九日、松本市で毒ガス事件が発生し、多くの被害者が



を脅威に感じる為政者・管理者たちの  
 思惑の前に、本はただ、為す術もなく  
 佇むしかないのだろうか。

こうした本たちを守るのが図書館で  
 ある。図書館は文化的遺産として本を  
 集積し組織化し、過去の文化を未来へ  
 と手渡している。かつて、図書館も時  
 の権力者たちの前に、疑いをかけられ  
 た図書差し出しその利用者情報を差  
 し出したことがある。現在でもその恐  
 れが皆無とはいえない。そうした恐れ  
 に対して自らを諫め、外的圧力から本  
 たちを守るための防波堤が、「図書館  
 の自由に関する宣言」(一九五四年日  
 本図書館協会採択、一九七九年改訂)  
 である。

「図書館は、基本的人権のひとつと  
 して知る自由をもつ国民に、資料と施  
 設を提供することをもつとも重要な任  
 務とする」という文で始まるこの宣言  
 は、以下のように続いている。

一・日本国憲法は主権が国民に存する  
 との原理にもとづいており、この国  
 民主権の原理を維持し発展させるた  
 めには、国民ひとりひとりが思想・  
 意見を自由に発し交換すること、  
 すなわち表現の自由の保障が不可欠  
 である。

知る自由は、表現の送り手に対し  
 て保障されるべき自由と表裏一体を  
 なすものであり、知る自由の保障が  
 あってこそ表現の自由は成立する。

知る自由は、また、思想・良心の  
 自由をはじめとして、いっさいの基  
 本的人権と密接にかかわり、それら  
 の保障を実現するための基礎的な要  
 件である。それは、憲法が示すよう  
 に、国民の不断の努力によって保持  
 されなければならない。

二・すべての国民は、いつでもその必  
 要とする資料を入手し利用する権利  
 を有する。この権利を社会的に保障  
 することは、すなわち知る自由を保  
 障することである。図書館は、まさ  
 にこのことに責任を負う機関であ  
 る。(以下略)

そして、「この任務を果たすため、  
 図書館は次のことを確認し実践する」  
 として、

一・図書館は資料収集の自由を有す  
 る。  
 二・図書館は資料提供の自由を有す  
 る。

三・図書館は利用者の秘密を守る。  
 四・図書館はすべての検閲に反対す  
 る。

の四項目を掲げ、「図書館の自由が侵  
 されるとき、われわれは団結してあく  
 まで自由を守る」と結んでいる。

ここで重要なのは、「図書館の自由」  
 は本たちを守るだけでなく、実に、国  
 民の知る自由を守っているということ  
 である。過去において、図書館は指弾

された本たちに受難を強いたことも、  
 その利用者の名前を明らかにしたこと  
 もあった。そういう苦い経験の反省に  
 立つての「図書館の自由」なのである。  
 過去の知的遺産を損なうことなく現代  
 に受けつぎ、求めに応じていつでもそ  
 れを人々に提供して、人々の資料や情  
 報への「アクセスの権利を保障する」  
 のが図書館の役割である。そして、コ  
 ピー機の発明のように、利用者は資料  
 や情報を利用して自らの夢を具現化し  
 未来を創っていくのである。図書館は、  
 そうした人々の夢の実現のささやかな  
 お手伝いをさせてもらっている。  
 (ほりかわ・てるよ/図書館情報学)

—— 参考・引用文献 ——

- (1) 『華氏四五一度』レイ・ブラッ  
 ドベリ著 宇野利泰訳 早川書房  
 一九七五 一〇一頁(早川文庫)
- (2) 『図書館の自由に関する事例三三  
 選』日本図書館協会 一九九七  
 一〇四頁
- (3) 同上書 一〇八頁
- (4) 同上書 一一七頁
- (5) 同上書 三九—四〇頁
- (6) 『表現の自由から図書館を考え  
 る』日本図書館協会 一九九七 六五  
 一六七頁
- (7) 『図書館ハンドブック』第六版  
 日本図書館協会 二〇〇五 四九一—  
 四九三頁